

「天に栄える村」の米づくりが 教えてくれたこと。

日本の教育の未来を創る「アクティブラーニング」という考え方には、自ら主体的に学び続けるという学習者像がイメージされています。プロジェクト学習では、地域やグローバルな課題に取り組む人々に学び、課題解決に学習者も参加・参画して、思考力・探究力と主体的・協働的な問題発見・解決のあり方を学びます。その学びはいつかのように進むのか、実際の学習プログラムの様子を紹介いたします。

プロジェクトの概要

原発災害から田んぼ再生に立ち上がった天栄村の農家の方々と村役場の吉成課長（産業振興課）の協力により、NPO法人留学フェロロシッパが実施した「天栄村プロジェクト学習@福島」。事務局長の金井文宏、副理事長の倉石寛（ともに立命館大学教員）が企画し、日本から海外に留学している留学生7名と、関西・東京および東北在住の高校生8名が参加しました。

福島県天栄村は、原発災害後の除染から田んぼ再生・収穫までを映画にし、大都市で上映して取り組みをアピール。福島産農産物の風評被害から脱却しようとしていました。原発災害という課題に、正面から取り組む天栄村の人々の「田んぼ再

生プロジェクト」に、留学生・高校生そして教員も参加して、「学ぶ」「働く」「生きる」というこの意味を考えるという趣旨で、2015年8月9日～11日の3日間の学習プログラムを実施。天栄村には9日夕方から入り、学習は10日朝の田んぼでの除草作業からスタートしました。

プログラムに参加したM-I-T（マサチューセッツ工科大学）2年の前田智大さんは、「M-I-Tというブランドのある大学に入ったからには、成功しないといけない」とプレッシャーを感じていた。でも、目の前にある課題に真剣に取り組む天栄村の人たちを目にしたことで、自分が些細なことに悩まされていたことに気づいた。まずは目の前にあることを片付けていこう、と吹っ切れた」と、学びのモチベーションの転換について語っています。

学習の流れ

前泊	13:00	福島市常円寺で開講・阿部和尚の言葉 バス移動
	17:00	天栄村役場職員、農家の方々へ自己紹介
	19:00	農家へ民泊～農家との対話～
1日目	8:00	天栄村の田んぼに集合。プロジェクト学習スタート
	8:30	田んぼでの除草作業体験
	11:00	農家の方々との質疑応答
	13:00	映画『天に栄える村』を鑑賞
	15:00	天栄村吉成課長のレクチャー
	16:30	ワークショップ1（3グループ） 「田んぼ再生にかけた村の実践と人々の思いを理解する」 村の子どもたちとの交流、和太鼓演奏 （今日の体験・質疑応答・映画・レクチャーのリフレクション）
	18:30	農家へ民泊～農家との対話～
2日目	8:00	ワークショップ2（3グループ） 「天栄村再生に向けて、 都市に住む留学生・高校生が協力できること」 農家の方々の前でプレゼンし、講評してもらう
	11:00	解散
	12:00	

1日目 天栄村の 田んぼを感じ、 人々の思いを知る

プログラム① 田んぼで除草体験

朝8時30分。天栄村プロジェクト学習は、田んぼでの除草作業から始まりました。初めての土の感触に驚きつつ、やがて夢中で雑草をひいた2時間半。「減農薬や無農薬でやっている田んぼは、除草剤を使わないため、人の手で除草をしないといけません。除草しないと雑草に栄養を取られて、風通しも悪くなる。日も入らなくなってしまう」。天栄米栽培研究会会長の岡部正行さんはそう語ります。自分たちがこのプログラムに参加することで、少しでも役に立っているのだろうか？ そんな参加者の不安を打ち消すように「除草、ご苦労さま」と、岡部さんが声をかけてくれました。

天栄米栽培研究会副会長 内山正勝さん

天栄米栽培研究会では、食味コンクールでの日本一獲得を目指して、日々研究を重ねています。有機肥料・無農薬でも、おいしくないとね。1年置いてもおいしいお米が理想です。

悩みの種は、天気や気温。粒の数は、温度管理で決まるので、手入れが大事なんです。昼夜の温度差がある方が、稲の実入りがよく、おいしく育ちますね。昔は、はだして田んぼに入っていたので、稲の発育温度もわかっていました。さらに、酸素が入って有機肥料がよくなるというメリットもありました。

ここ数年、温暖化の影響で、盆地だけでなく、山間部の天栄村でも高温障害が起こっています。実は、真夏日が増えるとお米はおいしくなくなるので、地球温暖化は困るよねえ。おいしいお米を作るには苦労も多いですが、皆さんの「おいしい！」という声を励みに、がんばっていききたいと思います。

田んぼのレクチャー おいしいお米を作るには？

稲穂の実入りは、
温度管理次第
なんです



雑草を抜くのは大変だけど。土と触れるのは楽しい。思わず笑みがこぼれます。



泥んこになった手足をタンクの水で洗う



天栄村の農家で民泊を体験。早朝に散歩すると、美しい山と田んぼが迎えてくれました。

【プログラム②】
農家の方との質疑応答・
映画鑑賞・レクチャー

11時。除草作業を終えて、参加者から農家の方に「本当のところ」を聞く質問タイムに。天栄村産業振興課の吉成さんと、農家の皆さんとの強いきずなが窺い知れます。

◆ 学生 米はどれくらい価格で売れますか？

農家 研究会で販売しているお米の価格は1kg800円〜1000円程度。販売方法は、村内の道の駅を中心に、地元百貨店やインターネット、口コミなどが大部分ですね。今年は新聞の大懸賞の景品に選ばれ、1kgの天栄米を3000人の当選者にお送りします。

学生 後継者問題はどうですか？

農家 息子が継いでくれる予定です。消費者・飲食店に直接売るので、生産費用に見合う価格で売れて、十分生計を立てられるので、個人で持っている顧客を息子に引き継ぎます。

学生 個人で販路を開拓しているんですね。「日本の米を学びたい」と外から移住してきて農業をしたい人には、どう対応しますか？

吉成課長（以降、吉成） 歓迎します。

が年間1俵食べるとしたら6万人しか食べられない。食糧自給の観点から日本の米づくりを広げていきたいです。

学生 日本一の米づくりが軌道に乗った時に起こった放射能汚染に迅速に対処されましたが、風評被害についてはどうされていますか？

吉成 「風評なのか、実害なのかかわからない状況ですが、除染の努力をしている農家さんは、いっぱいいるというのを理解してほしい」「限りなく0にしたい、元通りの福島にしたい」と訴えています。消費者も放射能0なんて無理じゃないかと見学に来られますが、「農家の方がすごい努力していることがわかり、意識が変わった」と言ってくれる人も多いです。

農家 私たちは、自分の子どもに食べさせられるか、を基準に米づくりを考えています。自分たちがここで

年間20件以上視察に来られて、聞かれれば、この農法のすべてを教えてください。この頃は自然農法が流行っていますが、この生活スタイル自体が自然農法的なので、定着する人も多いです。

学生 TPP、農産物の貿易の自由化についてはどう思いますか？

吉成 平成18年にWTOでコメの自由化が可決された時、「日本では農地の多くを占める水田に稲作以外の代替作物はない。米が作れなくなると日本の農村は終わりだ」と考えました。「ブランドトップの魚沼が最後まで残れる地域だと思う。われわれはその上の米づくりをめざそう」と農家の皆さんと話し合い、翌年、「日本一の米づくりをしましょう。有機無農薬の伝統の米づくりをベースに」と研究会を始めたんです。そして、村で一番、条件が良くないと言われていた山間部で一番おいしい米を作った。そこで、平地で農業をやっている人も皆がんばって米づくりを始め、次々と賞をとるようになりました。

学生 最終的にはどんな天栄村にしたいのですか？

吉成 お米づくり日本一の村で、田舎の原風景を残して、後継者もちゃんという村にしたい。あと、天栄村ががんばって作っても6万俵、日本人1人

何もしなければ、福島の農業の未来もないと。現在、福島は、日本中の原発の問題のしわ寄せを受けて風評被害にさらされていて、それがやしいです。役場の吉成さんたちにいろいろしてもらって、折れそうな心を支えてこまめやってきました。長崎に住まいの方から「母が被爆して、私は被爆2世です。自分も自分の子どもも放射能の影響があるか不安だった。長崎も緑と農業がよみがえり、地元のもの食べている。風評被害が大変だと思っけど頑張ってください」と、励ましの言葉をいただき、ありがとうございました。

◆ 質疑応答から、農家の皆さんの生の声を聞いた学生たち。天栄村がかえる課題の重さ、そしてそれまでも前を向いてがんばっている農家の皆さんと村役場の努力を知りました。



上／映画『天に栄える村』を鑑賞し、原発災害からの復興のストーリーを頭と心で受け止めます。下／天栄村役場の吉成課長からのレクチャー。映画で語り切れなかった思いを伝えます。



原発災害、除染、米作り再開：
天栄米復活のドキュメンタリー
『天に栄える村』

人口6000人ほどの里山に囲まれた小さな村、天栄村。そこには、日本一おいしい米づくりを目指す農家のグループ「天栄米栽培研究会」がありました。米のおいしさを競うコンクールでは、4年連続金賞を受賞し、天栄米はブランド米として着実に歩み始めます。そんな矢先の2011年3月、東日本大震災が起きました。この村にも原発事故で放出された放射性物質が降り注ぎ、田畑は汚染されてしまいました。

それでも農家はあきらめるわけにはいきません。「出来ることは何でもやろう」と、科学的な調査を元に、いち早く放射能汚染に立ち向かいました。

原発災害を乗り越えようとする農家を追うドキュメンタリー作品。各地で自主上映会が開かれています。



企画制作：桜映画社
撮影協力：天栄米栽培研究会
※自主上映会などのお問い合わせは
桜映画社 (03-3478-6110) へ。
<http://www.sakuraeiga.com/tensaka/>

3.11の原発災害と「天栄米」復活への道 天栄村産業振興課課長 吉成邦市さん

農家を守るためには、
前を向くしかなかった



2011年3月11日の地震の後発生した原発災害。天栄村の鳳坂峠は、アメリカ軍が危険区域とした80km付近にあり、村役場付近は、5月の段階で5.3マイクログシーベルトの放射能値が検出されました。水蒸気爆発で上がった雲の中にセシウムやストロンチウムがあり、放射能を含んだ雪が降りましたよ。県からは「農作物は全て収穫してはダメ」という以外指示もなく、「自分たちで考えて行動する」しかなかったのです。

3月24日の朝、県内の有機農家さんが自殺しました。その日の晩、天栄米栽培研究会会長で、30数年間無農薬を続けてきた農家の方が来られてね。「彼も死ぬかもしれない」と不安になって、かけた言葉は「大丈夫、作れるから」。そこから、どうすれば米が作れるようになるかを考え始めたのです。

3月30日、研究会の臨時例会。農家は全員参加しました。私はこの日までに指針を示したいと、インターネットで除染について集中的に調べ、「ゼオライト」「塩化カリウム」「プルシアンブルー」「微生物」、中でも染料の「プルシアンブルー」が最も除染効果があると知り、「4つの方法を組み合わせよう」と説明し、4つの除染法に関する日本を代表する専門家に連絡を取りました。

プルシアンブルーは、セシウムを選択的に捕まえる性質があるため、専門家の協力を得て、浸した布を農業用水路に置きました。付着した放射能の濃度から、放射線量の分布を把握し、図をつくりました。

そして、震災の2か月後には田植えを始め、秋に収穫。放射能値は基準以下でしたが、やはり売れなかった。そこで次の年、さらに除染を徹底し、放射能値0（検出せず）にして、お米のコンクールに出品したところ、1人の農家が金賞を受賞。でも、売れない。そこで、除染の取り組みを撮影した映画『天に栄える村』を上映して、農家の取り組みと放射能値0を訴えました。その成果か、今では多くの方が天栄米を指名買いしてくださるまでになりました。農地を未来の人たちにわたすために、放射能との戦いは今も続いています。

プログラム③ ワークショップ1

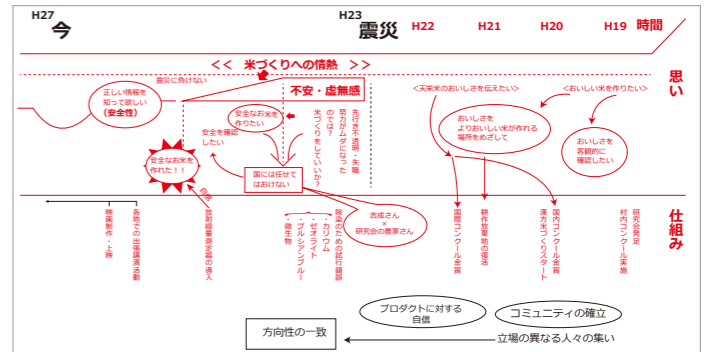
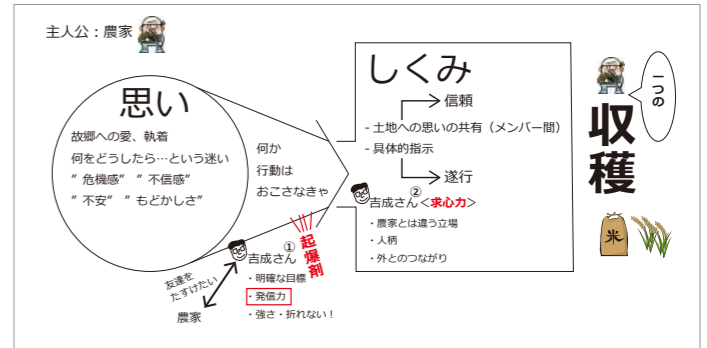
10日の天栄村での留学生・高校生
の学び——田んぼの除草フィール
ドワーク、田んぼ再生に取り組み農
家・村役場との質疑応答、除染と米
作りを記録した映画の鑑賞、天栄村
産業振興課長の吉成さんからのレク
チャー——のすべてを振り返り、天
栄村の人々のプロジェクトをトータル
に理解するワークショップを実施。

「原発災害後の放射能汚染された田
んぼを除去して再生する。そして米
づくり日本一の農家の取り組みを再起
動する」という農家グループ・村役
場の地域課題解決のプロジェクトその
ものから、グループワークで、苦難
を乗り越えるレジリエンス（折れない
心）、働き方やチームワークの組み方、
地域再生の方法を学んでいきます。



3つのグループに分かれて議論する学生たち。

ワークショップ1 「田んぼ再生の取り組みの全体像を理解する」 各グループの発表



2日目 自分事として 協力プランを提案

プログラム④ ワークショップ2

ワークショップを踏まえて、主として都市圏域に住む留学生・高校生が天栄村再生にどのように参加・協力できるか提案。農家や村役場からの講評を受けました。これで「天栄村プロジェクト学習@福島」はすべて終了。参加した留学生・高校生にとって、大きな学びの機会となりました。

主催者総括

天栄村の人たちは、原発災害からの村の再生と天栄米復活という困難なプロジェクトに、村役場と農家の

チームワークで先鋭的に取り組まれていました。

このプロジェクトに、海外でアクティブラーニングの学びをする日本人留学生（ハーバード、コロンビア等のアイビーリーグ、MIT、リベラルアーツ系大学）及び高校生（相馬・仙台・東京の高校生と灘校生4名）が参加。まだプロトタイプの段階ではありましたが、フィールドワーク、映画、対話（質疑応答）、レクチャー、グループワーク等、多様な学習方法で学生たちは、天栄村の田んぼ再生の全体像を把握し、自らの生き方・学び方をリフレクションできました。

次回以降、海外でプロジェクト学習を学ぶ留学生の企画段階からの参加により、天栄村再生へ協力するプロジェクトの提案を充実させていきたいと考えています。

ワークショップ2 「天栄村再生に向けて協力できること」 学生からの提案のひとつ

—この3日間で私たちがえたもの
経験の大きさ。

—しかし
—そこで

みんなが来たいキャンプ

テーマは**村に恋する3日間**

—目的

- ★天栄村ファンを増やそう
- ★リピーター訪問者を増やそう

同世代との交流
農家さんとの交流

—自然と

天栄村に恋におちる♡

(1日目)	(2日目)	(3日目)
12:00 集合 移動 交流会・お話し 黄金太鼓の体験 温泉 民宿にて宿泊	6:00 起床 散歩 8:00 田んぼでの体験 川遊び —お昼— 14:00 Work Shop (話を聞く・考える) 共に考え共に作る 星空ツアー	6:00 農家での収穫 発表 BBQ

行く前は「私にできることはなにか現状を見て考えたい」と思っていたが、なんて上から視線なことを考えていたのだからと恥ずかしく思った。それよりも現状を正しく理解して、そこから何を学べるか、と考えるべきだった。そしてそれを踏まえた上で「私に何ができるか」をこれからの長い人生の間で多くを学んでいく中で考えたいと思った。

英国キングスカレッジ1年 後藤悠香
吉成課長は、はっきりとした信念や展望を持っていて、それを周りの人に伝えることで共感を得られた。先導を切って自分の方針を打ち出し、周りをガンガン引く張るわけではなく、素朴で謙虚な姿勢で周囲を自然に惹きつけている。そんな吉成課長のリーダーシップのあり方が印象に残った。
マサチューセッツ工科大学2年 前田智大

天栄村の人々は、県などの動きを待つのではなく、自分たちから除染活動を始めるなど行動を起こしていた。周りの人をも巻き込みながらうまく流れをつくり、地域全体に貢献されたと分かった。手探りで工夫を積み重ねながら状況を前へ前へと進めようとする姿勢に、「人間力」の強さを感じた。 高校1年

物凄く強い思いを持った人たちに支えられていると感動した。除染など復興に向けて課題は多く残るが、「今までの姿に戻る」というマインドセットよりも「福島をどうよくなるか」というゼロベース思考があって素晴らしい可能性を感じた。

コロンビア大学2年 加瀬彩乃

「天栄村プロジェクト学習@福島」に参加して…

一緒に数学の宿題をしたり、おばあちゃんと星を見に行ったり、ご家族一人ひとりと時間を持つことができて、天栄村での居心地の良さが増した。
ハーバード大学1年 野田萌佳

素晴らしい経験でした。特に、僕の泊まった家はとてもフレンドリーで家族のように暖かく、「天栄村のお父さん、お母さんと呼んでね」と言われました。お二人は、「またうちに帰っておいで！友達も連れてきていいよ！次来るときは、ただいま、って言うんだよ」と言ってくれました。 高校1年

民泊がよかった。その村ならではの料理や風習を体験できた。深い話をゆっくりしたりできるのは素晴らしいと感じる。ただ、どうしても地域住民の方へ負担をお願いすることになるため、そのあたりは検討が必要かもしれません。今回は本当にお世話になりました、ありがとうございます！

ハーバード大学1年 高島峻輔

来年もあるならぜひ参加したいです
高島



土に触れ、頭だけでなく、
体で稲作を感じられた
野田

